

平成 27 年度 県立文化施設 展覧会の予定

※ 予定であり、展覧会名・内容・会期は変更になる場合があります。

夜の画家たち — 蝋燭の光とテネブリスム —

4月18日(土)～6月14日(日)

西洋美術がひとつの頂点を迎えたバロック期。その代表的な技法に、夜や闇のなかから、一条の光や炎によって、劇的に対象を浮かび上がらせるテネブリスム(明暗主義)があります。

近代に初めて西洋美術に出会い、こうした新しい表現に挑んだ日本人画家、亜欧堂田善、高橋由一、高島野十郎ら、独自の明暗表現を手がける日本の「夜の画家」たちの作品を展示します。

また、17世紀フランスの巨匠ジョルジュ・ド・ラ・トゥールの作品も展示予定です。

近代風景画の創造 ノルマンディー展

6月27日(土)～8月23日(日)

セーヌ河の河口であり、英仏海峡に面するフランス北部ノルマンディーは現在もフランスで最も人気のある保養地の一つです。19世紀初頭、風光明媚なこの地の古い町並みや遺跡は、「ピックチャレスク(絵になる光景)」とされ、英仏のロマン主義の画家たちに度々取り上げられるようになります。

その後、移ろいゆく光の表情や、余暇を楽しむ近代生活の情景を描いた印象派のふるさととなりました。

本展では、近代風景画の発展に寄与したノルマンディーの役割を、アンドレ・マルロー美術館を始め、国内外の所蔵作品により検証します。

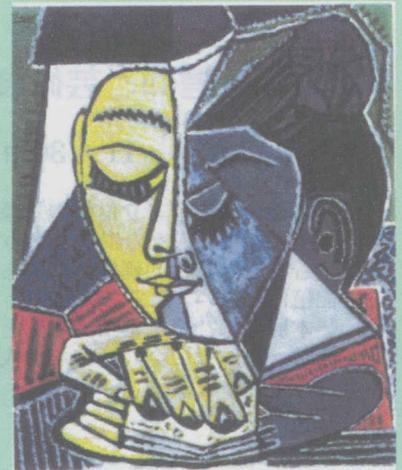
ルートヴィヒ・コレクション ピカソ回顧展

9月1日(火)～10月25日(日)

ピカソは造形上の表現手法を駆使し、油彩の他に素描、水彩、版画、陶芸などを手がけ、様々な実験を試みた。その作品数は十数万点にも及んでいます。

ルートヴィヒ美術館の創設者ペーター・ルートヴィヒ夫妻は、1950年頃から収集した、ピカソの油彩、素描、水彩、版画、彫刻、陶器類など約7200点を、ドイツのケルンにある現代美術館へ1976年に寄贈しました。この美術館が独立したのが、ケルン市ルートヴィヒ美術館です。

本展覧会では、ルートヴィヒ美術館のコレクションから、ピカソの初期から晩年までの様々なスタイルの油彩、版画、陶器等を展示します。また、マン・レイやロバート・キャパなど有名写真家たちによるピカソのポートレートも展示予定です。



《読書する女の頭部》1953年

山梨県立美術館

甲府市貢川 1-4-27 〒400-0065
Tel055-228-3322 Fax055-228-3324

近代俳句展 — 「雲母」創刊100年記念 —

9月19日(土)～11月23日(祝・月)



正岡子規「燈籠にふたトビ
ともし夜半哉」扇面額装

五・七・五の十七文字に表現される俳句は世界最短の詩型として、日本のみならず海外にも存在を広く知られています。山梨県の俳人飯田蛇笏が主宰・発行し、蛇笏没後は四男龍太が継承した俳句雑誌「雲母」の、創刊から100年を迎える明年、俳句文芸の特色を紹介しつつ、俳句の面白さ、魅力を現代の視点から問い直します。

代表的な俳人一正岡子規・高浜虚子・河東碧梧桐・飯田蛇笏・水原秋桜子等々の直筆資料を始め、夏目漱石や芥川龍之介、岸田劉生の俳句への関わりにも触れ、俳句文芸の可能性を示します。

山梨県立文学館

甲府市貢川 1-5-35 〒400-0065
Tel055-235-8080 Fax055-226-9032

平成 27 年度 県立文化施設 展覧会の予定

※ 予定であり、展覧会名・内容・会期は変更になる場合があります。

微笑みの円空・木喰展

3月28日(土)～5月18日(月)

甲斐国出身の木喰は、全国を行脚しながら各地で仏像を彫り残した、作仏聖として知られています。

93歳で没するまで、全国で1000体以上に及ぶ像を制作したと言われ、現在は700体程が確認されています。その多くが満面の笑みを浮かべていることから「微笑仏」と呼ばれ、今でもたくさんの人を魅了しています。

本展では、本県出身の木喰の作品とともに、同じく作仏聖として名高い円空の作品も併せて展示し、近世遊行聖の活動について残された作品と資料から紹介します。

大化石展

7月18日(土)～8月31日(月)

化石を通じて山梨の大地の成り立ちと生き物たちの変遷を紹介します。山梨では貝類、サメ類などの海棲生物の化石が発掘されており、その多くは千数百万年～数百万年前の山梨地域に海が入り込んでいたことを示しています。

これらの化石を調べることで、現在とはまったく異なる過去の環境を明らかにすることができることなど、本展では研究の楽しさを追体験できる展示とします。

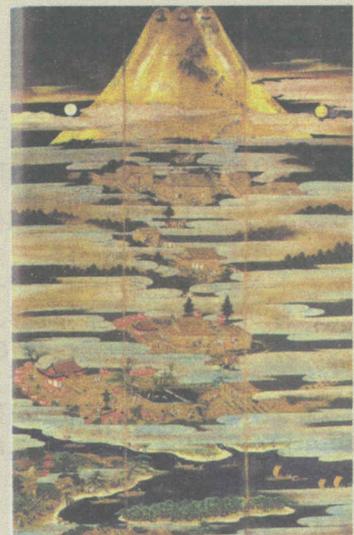
また、子どもたちに人気の高い恐竜化石もふんだんに展示し、山梨で恐竜が出土しない理由を考えることで郷土への理解を深めていただく予定です。

富士山—信仰と芸術展

10月24日(土)～11月30日(月)

富士山は古来より信仰の対象であり、また、数々の芸術作品を生み出す源として、人々の崇敬を集めてきました。平成25年6月には、そうした普遍的な文化的価値が認められ、世界文化遺産に登録されたことは、記憶に新しいところです。

本展では、特に富士山信仰とそれを起点として生み出された芸術作品の数々を一堂に会し、今なお人々の心をとらえて放さない富士山の魅力をご紹介します。



富士参詣曼荼羅図(富士山本宮浅間大社蔵)

山梨県立博物館

笛吹市御坂町成田 1501-1 ☎406-0801

Tel055-261-2631 Fax055-261-2632

山梨県立博物館は平成27年度に開館10周年を迎えます。



水煙文土器 安道寺遺跡(甲州市)

縄文の美

～世界に誇る山梨の縄文～

10月6日(火)～11月23日(祝・月)

山梨は、縄文時代の遺跡が多く発見されており、多くの素晴らしい土器などが見つかり、縄文時代からたくさんの方が住み、縄文時代の文化が華開いた土地であったことがわかっています。

縄文土器や土偶は、その芸術性の高さから、海外でも「JOMON 芸術」として紹介されています。土器や土偶に見られる立体的かつ装飾的なデザインから縄文人のエネルギーを受ける空間を演出し、日本文化の源流をなす縄文の美に迫ります。



水煙文土器 展開写真 小川忠博撮影

山梨県立考古博物館

甲府市下曾根町 923 ☎400-1508

Tel055-266-3881 Fax055-266-3882